



新春トップインタビュー

日清オイリオグループ 久野貴久社長

—2025年振り返つて

環境保護庁(EPA)が発表したバイオ燃料混合比率の義務量増加を発端に、大豆油相場が上昇し、オイルバリューは一時50%超まで高騰した。今後も堅調なオイル需要によりオイルバリューは高止まりしやすい

—油脂事業の状況は化に向けた交渉を粘り強く進めていく。

業務用では、適正価格の販売に注力している。汎用油の斗缶製品では計画通りの物量確保が叶わなかった

豆相場が大きく下落してお

り、今後は再度、成長軌道に戻ると予想される。引き

中期経営計画「Value Up X」2年目の年を迎える日清オイリオグループ。製油業界を取り巻くコスト環境が厳しさを増すなか、お客様のニーズを的確にとらえ、「生きるエネルギー」をすべての人に届ける「グローバルトップレベルの油脂ソリューション企業へ」飛躍を遂げることを目指すと語る久野貴久社長に日清オイリオグループのこれまでとこれからを聞いた。

(聞き手 川田岳郎)

2025年は長期ビジョン「日清オイリオグループ2030」の戦略に沿った2期目の中期経営計画「Value Up X」の初年度としてスタートした。CSV経営をさらに深化させて事業戦略と一体化させるこ

とによって、多様な価値創造ストーリーを編纂し、最終年度である28年度に営業利益280億円(営業利益率5%以上)、ROE8%以上、ROIC6%以上となることを目指していく。

大豆、菜種を原料とした食用油について、ユーティリティコストや物流費の上昇、人手不足の影響などがコスト上昇の要因となり、24年10月、そして、25年4月からの価格改定のお願いへとながった。さらに、オイルバリュー高騰の影響が強まり、事業運営におけるコスト圧迫は一層深刻化し、25年9月からの価格改定を表明した。価格改定のスピードは思い描いた通りとはなっていないが、実勢

構造となっている。
—事業環境は

大豆、菜種を原料とした食用油について、ユーティリティコストや物流費の上昇、人手不足の影響などがコスト上昇の要因となり、24年10月、そして、25年4月からの価格改定のお願いへとながった。さらに、オイルバリュー高騰の影響が強まり、事業運営におけるコスト圧迫は一層深刻化し、25年9月からの価格改定を表明した。価格改定のスピードは思い描いた通りとはなっていないが、実勢

の市場回復」「サプライのオイルの浸透」に取り組んだ。この価格高騰をきっかけに、生活者の節約志向はますます強まるなか、特に、クッキングオイルは苦戦する結果となつた。家庭用食用油市場を取り巻く環境は厳しいが、諦めずに構造改革を推し進める。オリーブオイルについては、スペイン、イタリア等の主要国での原料相場が総じて堅調である一方、25年6月に米国

回復に向けた当社の取り組みとして、BOSCOをトップブランドとしつつ、風味や価格、調理方法など異なる特徴を生かした提案を強化し、幅広いニーズに応えていく。

—2026年の抱負を受けて大東カカオの25年度少したが、利益面では価格改定が進んだことにより前年を上回った。相場高騰で一旦冷え込んだチョコレート需要については、カカオ豆相場が大きく下落してお

り、今後は再度、成長軌道に戻ると予想される。引き続き、コストに見合った価格での販売を行うことで利益を確保していく。MCT

—2026年の抱負を

2026年は「Value Up X」2年目の年として、2025年で新たに見えた課題を踏まえつつ、お客様のニーズを的確にとらえ、価値のある製品を適正価格で提供し続けている。さらに、国内油脂・油糧事業については、特に家庭用食用油市場が変化していくなかで、中長期的な事業戦略・構造改革方針に基づく製品のポートフォリオの見直しが必要になってくる。また、事業戦略に整合した生産・出荷体制の再構築と生産の瞬発力アップによる在庫の縮減・欠品率の低減、ホワイト物流を前提とした物流ネットワークにおけるコスト構造の明確化など、営業・生産・物流で連関して資本収益性を高めていく。グローバル油脂・加工油脂事業については、チョコレート用油脂の拡販による利益成長に向けて、「Value Up X」期間中における成長ドライバーとしての事業成長を加速させていく。

—加工食品・素材事業

カオ豆高騰による国内チョコレート需要減少の影響を受けた大東カカオの25年度少したが、利益面では価格改定が進んだことにより前年を上回った。相場高騰で一旦冷え込んだチョコレート需要については、カカオ豆相場が大きく下落してお

り、今後は再度、成長軌道に戻ると予想される。引き

「生きるエネルギー」をすべての人に届ける

価格での販売の実現が最優先課題。今後、さらにニーズが高度化、専門化することが想定されるなか、油脂原料のみにこだわらず、あらゆる機能素材を最大限活用し、お客様のニーズに応える機能性油脂・油剤の開発、販売に取り組んでいます。

—グローバル油脂について

ISFグループで欧州・アジア・北米の3極を軸に事業拡大につながる取り組みを推進している。チョコレート用油脂の生産能力の増強に向けた投資を着実に進めとともに、東南アジ